

徳島の伝説の遍路宿 般若心経がプリントされた掛け布団。これで寝かせていただいた。この宿のファンになった遍路から贈られてもの



伝説の遍路宿(続)

途中で「あの宿はもう歳をとられて、止めているらしい」と聞いたが、とにかく電話をしてみるとOKだった。遍路コロガシといわれる12番焼山寺を超えてきていて、五日目の宿だった。着いたら、腰の曲がっているおばあさんが、引たくるようにして洗濯物を取り上げた。洗濯機に入れるのは自分でしたが、脱水の後、乾燥までに叩きのばしてくれていた。昔風の洗濯を思い出した。宿泊費は歩き遍路御接待ということで、千円引きの5千円だった。おまけに翌日の昼弁当のおにぎりがついた



伝説の遍路宿(続々) あまりにおいしそうだったので、ついついビールを所望してしまった。右手前は、地元でしか食べないという魚の煮物(名前は忘れた)。手間がかかるようだが、新しいので、口の中で弾むような弾力のある煮魚であった。



長く歩いて、のどが渴いているとき、このおばあさんに
ブントンをいただいた。手前にあるのが私の荷物一式



これは37番岩本寺の朝食であるが、注目は右手前の袋。
これが出発する遍路への御接待である。ヒモが付いていて何でも入れられる。どういう仕組みか分からないが、これが、心優しいオバアサンに対する「所得分配になっていけばいいなあ」。



ここも評判の遍路宿だ。ネットで「久百々」のホームページがある。朝、出発前の頃、甘いものなど日頃みたこともないような、子供用のお菓子の詰め合わせを持って帰ってきた。遍路道の峠で楽しんだ。いろいろな袋小物も、朝の食卓にでた。



これは私の証拠写真



お遍路無料宿



中は、きれいに掃除してあった。

